

(仮訳)

プレス・リリース

2020年10月19日

金融安定理事会は「サイバー事象の初動・回復対応の効果的な実務」を公表

金融安定理事会（FSB）は本日、金融機関におけるサイバー事象の初動・回復対応のための効果的な実務のツールキットを公表した。FSBは、当局および（金融エコシステムにおける）各組織に対して、サイバー事象の初動・回復対応を強化するため本ツールキットを活用することを奨励する。

サイバー事象は、グローバルな金融システムの安定に対する脅威であり、リモートでの職場環境は COVID-19 の世界的大流行に照らすと警戒の必要を高めている。重大なサイバー事象は、適切に封じ込められなければ、重要な金融インフラを含む金融システムに深刻な混乱をもたらし、より広範な金融安定上の含意を持ち得る。サイバー事象への効率的かつ効果的な初動・回復対応は、関連する、いかなる金融安定上のリスクを抑制するうえでも不可欠である。こうしたリスクは、例えば、複数の金融機関間や、金融機関と第三者サービス・プロバイダー間において相互に接続された IT システム、主要な金融機関や金融機関のグループに対する信任の失墜、サイバー事象による財務上の損失に伴う資本の毀損等によって、もたらされる可能性がある。各組織のサイバー・レジリエンスは、金融システムの円滑な機能や金融安定の確保に欠かせないものである。

各組織におけるサイバー事象への初動・回復対応の強化は、各国当局にとっても重要な焦点である。各国当局は、監督実務を通して金融機関における効果的なサイバー事象の初動・回復対応についての知見が得られる特別な立場にあり、複数の組織を横断的に観察することで、強化すべき分野を示唆することが可能となる。また、当局は、金融安定への潜在的なリスクとなるサイバー事象への対処において重要な役割を担っている。当局はさらに、適切な場合には、金融安定を損なうような脅威に対する防護のための情報共有に際しても、各組織を支援し得る。

本ツールキットには、以下の 7 つの項目にわたる 49 の効果的な実務が記載されてい

る。(i) ガバナンス、(ii) 計画・準備、(iii) 分析、(iv) 影響緩和、(v) 復旧・回復、(vi) 連携・情報共有、(vii) 改善。本ツールキットの最終版には、4回のバーチャルでのアウトリーチ会合を含む市中協議の過程で寄せられたフィードバックが反映されている。また、本ツールキットは、10月のG20財務大臣・中央銀行総裁会議に提出された。

FSBは本日、市中協議において挙げられた主要な論点の概要についても公表し、それらに対応するために最終版に加えられた変更について説明している。